

# 柝の木からの手紙

2017年 3月号



3月4日、報徳北自治会（44戸）の報徳神社の春の御祭りが行われました。今年が私が組合長を務める新栄組合（17戸）が神社の当番。地域の繋がり。家族の繋がり。自然との繋がり。この地を司る大土主命。台座の四隅には、四柱の祓戸の大神達が祀られています。この日の御祭りに合わせて準備を行う中で、自然界の神々に守られている事を感じ、当日は穏やかな晴天に30名を越える人が集まり今年一年の健康と豊穰を祈願致しました。

3月 弥生						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

- 5日： 啓蟄
- 12日： 満月： 旧 2月 15日
- 18日： 「遺伝子組み換えルーレット」 映画上映  
マナビティセンター 9時20分から85分  
続けて 美幌会総会 11時より
- 20日： 春分の日
- 28日： 新月： 旧 3月 1日

高杉晋作が病床で辞世の上の句を詠んだ時に、看病をしていた野村 望東尼がそれに続く下の句を次の様に詠みました。高杉が詠んだ上の句は何だったのか？

## 住みなすものは ころなりけり

2月13日（月）平成28年度 第三回 議会報告会・意見交換会 が、昼と夜の部の2回開催されました。私は、夜の部に参加させて頂きました。

テーマは“住み続けたいくなるまち”

～わが町の良いところ、不便に感じるところ～

吉田氏 JR北海道の問題。貨物輸送の確保。

朝倉女史 子育て支援対策。

三浦氏 自治会サポーター制度

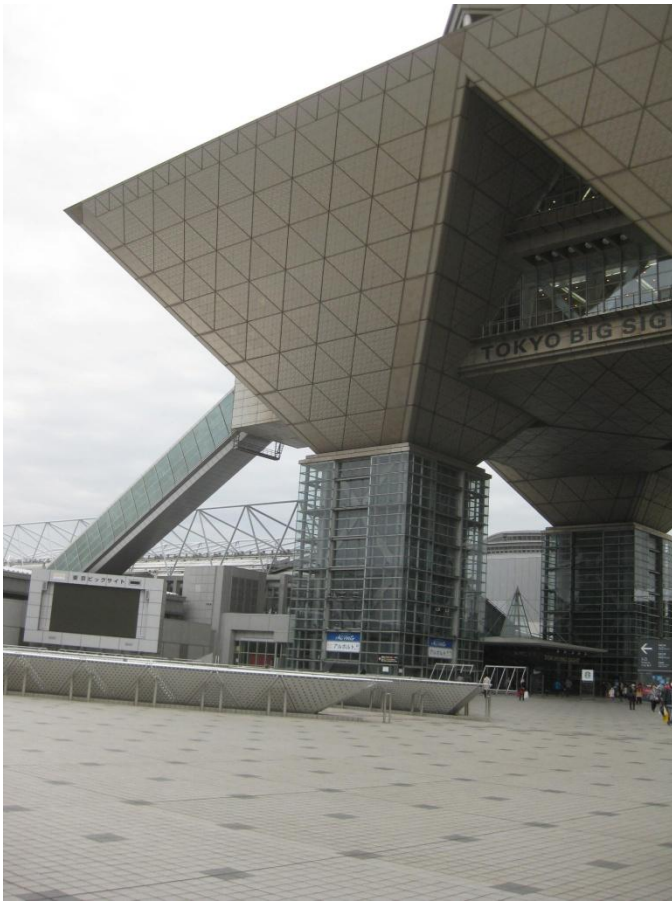
朝倉氏 ふるさとの良さ2点 「藻琴山、藻琴山の水」。「アイヌ文化、遺跡、地名」。

高橋 子育て支援は大人に対する支援。これも一つの方法ですが、子どもたちに対して、時期が来て町を離れる事があっても人として大きくなってまた戻って来たいような「ふるさとの意識」を持てるような活動。

現在、小麦を挽く為の碾臼を探しています。冬の間食育活動を考えていましたが出来ませんでした。次は、夏休み子どもキャンプに取り入れられるように準備したいと考えています。神社で集まった人達に尋ねましたが「昔は在ったけれど…」という答え。



2月18日（土）東京国際展示場ビックサイト



**第3回 自然農法全国大会 in 東京**  
**公開シンポジウム**  
**日本の元気をとリモどす**  
～有機農業・自然農法から広がるまちづくり～

開催日時 平成 29年 2月 18日（土） 13時～16時15分  
会場 東京ビックサイト 会議棟6階 大会議室

- ★ 記念講演 「世界で勝てるアスリートを育てる有機農業・自然農法への期待～生産者と共に活動するワンラブ農園のこと～」  
村上恭和（卓球女子日本元代表監督）  
稲垣雅之（(株)ワンラブコーポレーション 代表取締役）
- ★ 事例報告 「なぜ羽咋市は“自然栽培の聖地化”を目指すのか」  
粟本政明（JAはくい 営農部 農業振興課 課長）
- ★ 現場からの提案 「自然農法にかける夢～医師として、農家として」  
豊田孝行（和歌山県紀の川市 医師 自然農法生産者）
- ★ 顕彰

主催 一般社団法人 MOA自然農法文化事業団  
後援 農林水産省、東京都、日本有機農業学会、特定非営利活動法人全国有機農業推進協議会、特定非営利活動法人有機農業参入促進協議会  
出 発 日本オーガニックフラワー協会、A Seed For The Next 他  
参加費 大会参加費1人 2,000円（前売り券 1,800円）  
参加申込 当事業団各支所まで  
※定員600名になり次第で切となります。  
問合せ先 一般社団法人 MOA自然農法文化事業団  
普及部 TEL 0558-79-1113（担当 森山、竹内）  
関東支所 TEL 03-5672-0381（担当 鈴木）

情報交流会 17時～19時  
シンポジウム閉会后、会場を移して、自然食での情報交流会を開催します。是非ご参加ください。（会費制 1人 3,000円）

**会場のご案内**

りんかい線（「国際展示場」駅下車7分）  
13分 5分  
ゆりかもめ（「国際展示場正門」駅下車3分）  
22分 5分

2020年、東京を中心とするオリンピック・パラリンピック開催に向かう中、国を挙げて有機農産物等の生産等の拡大が推進されています。そんな動きに呼応する様に

「自然農法の公開シンポジウム」が開催されました。

主催： 一般社団法人 MOA自然農法文化事業団

後援： 農林水産省 東京都 日本有機農業学会  
特定非営利活動法人 全国有機農業推進協議会  
特定非営利活動法人 有機農業参入促進協議会

協賛： 日本オーガニックフラワー協会

A Seed For The Next

他

私は、仕事や飛行機の都合で短期日の帰省をしていて北海道へ戻るこの日、このようなチャンスに巡り会えた事、短時間でも講演を拝聴させて頂けた事に感謝し、社会に広めさせて頂きます。

まず、協賛団体ですが、私は、今まで「有機の食べ物」という意識は在りますが、「有機の花」という意識は在りませんでした。ただ、人工的に着色された花に対する忌避感を抱くのみでした。今や、人々のこころやからだを癒してくれる花にも有機の思いが取り入れられているのですね。確かに、「不健康な食べ物」・「不健康な花」に接するよりは、「健康な花」に触れたいですね。

また、「A Seed For The Next」という団体も在るのですね。直接的には、実際の種から生命・生き方・食べ物といった命の営みを考える団体だと感じました。また、あらゆる分野・産業において新たな価値観（種だと思ふ）の元に、人々が自由で楽しく健やかに共存共栄して生きて行くため、全ての社会的活動に携わる人々が柔軟な連携を形作る為の場を構築する活動をしています。

特にここに残った講演は、和歌山県紀ノ川市の医師であり、自然農法生産者でもある 豊田 孝行氏（41歳）の「自然農法にかける夢～医師として、農家として」でした。

## 現場からの提案

和歌山県紀ノ川市 医師  
自然農法生産者 豊田 孝行

# 自然農法にかける夢

～医師として、農家として～

### ■ 講演者プロフィール

豊田 孝行（とよだ たかゆき）

医師・桃農家。和歌山県立医科大学卒。

和歌山県立医科大学病院、公立那賀病院勤務などを経て、2006年とよだ耳鼻咽喉科を開業、約9年間診療を続けた後、クリニックを先輩に譲り、再度非常勤医師に。実家の農園を継承しながら、精神科・耳鼻咽喉科・内科（在宅診療）医師として働いている。医師にかからないための体づくりをテーマに、個々に合った食事や生活習慣の指導、薬に頼らない健康指導等を行い、また和歌山自然農法研究会を立ち上げ、自然栽培、減肥料・減農薬栽培の普及活動にも取り組んでいる。



豊田 孝行氏

“どんな病気でも治す医師がいる世界より、誰も病気にならない世界の方が絶対に普遍的な幸福度は高い” 医学生の時から抱いてきた私の思いです。病気になって医師にかかり、治療を受けるよりも、その前に予防してしまった方が体への負担は少なく済みます。また無駄な医療費を削減できます。

経済的な発展と医療技術の進歩に伴って、日本人の平均寿命は格段に延びました。しかし、実際の健康寿命は平均寿命と比較して男性約9年、女性約13年と大きな隔りがあります。また、2人に1人が癌になり、3人に1人が癌でお亡くなりになる時代、原因不明のアレルギー疾患や膠原病が増え、心を病む人、不妊症の人も増えています。何かがおかしくなっているとしか言いようがありません。

食事、運動不足、精神的負担等、病気の原因は様々な要素が関係しており、一概に食事だけを改善すれば良いというものでもありません。一人一人の生活習慣が異なるため、各々が自分の体に関心を持ち、健康とは何か、健康になるためにはどうしたら良いか、健康であれば何がしたいのかを考えていく必要があると思います。

私はたまたま農家に生まれました。日光を浴び、土に触れ、食に関わることができる農業は本当に素晴らしい職業だと思います。可能な限り農薬、肥料を使用しない農業を追求しながら、食育、健康セミナーを通じて、一人でも多くの人と病気にならないための体づくりについて一緒に考えていきたいと思っています。

私達の活動がすぐに結果に結びつくわけではありません。地道な努力を重ねて、健康な人が増え、少しずつでも世の中が良い方向に変わっていってくれればと切に願っています。